

13 番 石 田

13番、石田照子でございます。

私は2点、「ICTを活用した教育を日常的に」、「タクシー券のシルバー定期券への利用拡大を」ということで、御質問させていただきます。

大きな1番、これからの子どもたちはインターネットとは切り離せない世界を歩んでいきます。学校においてもパソコンやタブレット等に触れることで、技術の向上と、知識の充実を図ることが必須と考えます。

このたびの新型コロナウイルスの世界的蔓延で、子どもたちは、学校の臨時休業の長期化により学習向上の機会が奪われました。こんなとき、日頃からパソコンやタブレットに触れ、使い方に慣れていたら、オンライン授業にもスムーズに移行できたのではないかと残念に感じるとともに、どのような状況下でも子どもたちから学習の機会を奪うことのないよう事前の対策の必要性を痛感しました。

また、デジタル技術を駆使することで視覚に訴え、より充実した授業展開を図ることができます。そこで、次の点を伺います。

1) 緊急事態宣言解除後もICTを日常的な教育に活用した授業展開をしていくべきではないか。

2) 教師のICT技術の向上にパソコン支援員の導入をするべきでは。

大きな2番、本年度、高齢者福祉タクシー助成制度では、タクシー券が富士急湘南バスの回数券にも利用できるようになりました。地域の方にとっては、御自分の生活スタイルに合わせた選択ができ、便利になったことと思います。

しかし、今回の改正では、富士急湘南バスが発行しているシルバー定期券、年間2万6,200円ですが、それには利用できません。シルバー定期券で年間利用できるようになれば、行動範囲も広がり、健康寿命にもつながることと考えます。そこで、次の点を伺います。

1) 高齢者福祉タクシー券の利用拡充を再考し、より町民に寄り添った使い勝手のよい、利用者に優しい制度にしていくべきではないか。

以上です。

議

長

答弁願います。

町長。

町

長 それでは、石田照子議員から「ICTを活用した教育を日常的に」と「タクシー券のシルバー定期券への利用拡大を」についての御質問を頂きました。

初めに、町では町内の小・中学校のパソコン室にパソコン及びタブレットを整備し、小学校では児童自らがパソコンやタブレットを使った調べ物学習をするなど、主にパソコンに慣れる学習をし、中学校では、資料作成やデジタル作品の作成等、既存のソフトウェアを使った学習を行ってまいりました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の急速な拡大に伴い、小・中学校の長期臨時休業を余儀なくされ、三保小学校では4月13日からインターネットを使った家庭学習を、川村小学校と山北中学校ではネット環境の整っていない家庭に町からWi-Fiルーターやノートパソコン等を貸し出し、5月27日からオンラインを使った家庭学習を始めたところであります。

そこで、1点目の「ICTを活用した教育を日常的に」について、1番目の御質問の「緊急事態宣言後もICTを日常的な教育に活用した授業展開をしていくべきではないか」についてであります。町では、パソコンをデスクトップ型からタブレット型への移行、家庭学習に活用する家庭学習ソフトウェアの導入、無料アプリのスカイプによるインターネットを利用した海外の学校との英語活動による交流、教職員の資質向上のための研修会の実施など、数年前からICT教育を重点課題として取り組んでおります。

また、国では、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学校の長期にわたる休業を受け、「一人一台端末」、「学校ネットワーク環境の整備」などを目指すGIGAスクール構想の早期実現を打ち出しております。

町では、これを受け、今年度中に一人一台端末と高速大容量の通信ネットワークを小・中学校に整備する予定であります。

一人一台端末と高速大容量の通信ネットワークの整備により、パソコン室に行かなくとも各教室で日常の授業において、パソコンやタブレットを使って動画の活用や、分からないことをその場で児童生徒がすぐに調べることができるため、日常の授業に積極的に活用していきたいと考えております。

また、現在進めております家庭学習における動画配信等の経験を生かし、ICTを活用した授業実践に努めてまいります。

このように、ICTを活用した授業はこれからの学校教育の重要な部分を

占めていくと考えておりますので、学校の臨時休業での活用に終わらせることなく、日常的に活用してまいります。

次に、2番目の御質問の「教師のICT技術の向上にパソコン支援員の導入をするべきでは」についてであります。ICTの効果的な活用を図るためには、一人一台パソコンやネット環境の整備などのハード面の環境整備、デジタル教科書や教材活用などのソフト面の整備、そして教職員の能力向上のための人材支援策がとても大切であると考えております。

特に人材支援策としては、教職員の能力向上のための研修会の確保や、ICT教育アドバイザー、ICT支援員、企業人材の活用などが重要であると考え、国・県等へ人材への支援を積極的に働きかけるとともに、町としても専門的な人材確保による指導体制の充実に努めていきたいと考えております。

次に、2点目の御質問の「高齢者福祉タクシー券の利用拡充を再考し、より町民に寄り添った使い勝手のよい、利用者に優しい制度にしていくべきではないか」についてであります。現在、町では、70歳以上の方がいる世帯を対象に、三保地区は年間2万4,000円、清水地区・高松地区には年間1万8,000円、共和地区・平山瀬戸地区は年間6,000円の高齢者福祉タクシー券を配付しております。

町では、高齢者の方がより使いやすいように、今年度から高齢者福祉タクシー券を富士急湘南バスの路線バス乗車運賃として利用できるようにいたしました。さらに利便性を高めるため、シルバー定期券にも利用できるよう富士急湘南バスと調整を始めております。

現在のところ、富士急湘南バスからは前向きな回答を頂いておりますので、今後、導入していきたいと考えております。

議 長

石田照子議員。

13 番 石 田

和田議員と内容が重複するかもしれませんが、私は確認をということで再質問をさせていただきます。

先ほどの説明の中で5月25日にテスト配信をして、学習動画を配信しているような御説明がございましたけれども、この動画の内容ですね、先ほど、健康チェックやストレスチェックと申しましたが、もう少し詳しくどのような学習動画なのか御説明いただきます。

議 長 学校教育課長。

学校教育課長 学習動画になるんですけども、授業といいますか、動画をまずその学びのための導入部分として使っていただくというものでございまして、例えば、小学校1年生になりますと、まず文字に慣れていくということで、その教科書に載っているものの読み聞かせのような感じ。

それから、中学生になってきますと、国語で言いますと辺のつくりとか、そういうものはこうです。この後、課題等の学習として、何ページから何ページをやってくださいというような、そのような動画を作っております。

まず、そこが導入で、これからどんどん、どんどん使い方というのは広がっていくと考えておりますので、その辺は、その工夫しながら動画というのは作っていきたいと思います。

それと、導入にしましたもので、アンケート調査みたいなこともできます。これは、各クラスでクラスルームというのを作りまして、その中で、どうですかということで返してもらおう。それが、先生が見ることができるということで、そこからどういうことか、どうなのかとテストみたいなことにも使えます。何々という問題を出して、この答えは何ですかということでやることもできますので、これからも、まだまだ研究の段階ではございますけれども、いろいろと使えるように広げていきたいとは考えております。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 そうしますと、今の御説明ですと、双方向にやり取りができるというオンライン授業ということになりますよね。そして、このオンラインというのは、録画とか、保存をすることによって、児童・生徒側の都合に合わせて、何度でも反復学習ができるというメリットがあるんですけども、今回導入したその学習動画というのは、録画はできるのでしょうか。

議 長 学校教育課長。

学校教育課長 録音したものをアップしておりますので、それをクラスルームというところに上げてございます。ですので、それを管理者が消さない限り残っておりますので反復しながら見ることもできます。

それから、動画を止めてまた戻ってとか、ビデオみたいな感じでも使うことができますので、聞き逃したとかということでも、また戻って学習ができ

る。また、このことは何だったんだろうなということで、また見直すということもできますので、上げた動画はそのまま残ってますので、いつでも、どこでもといたしますか、ネット環境があれば見ることができるということでございます。

議 長 教育長。

教 育 長 この三保小学校については、1対1、あるいは1対4の双方向でのリアルタイムで、やり取りができる、そういう形でございます。

ただ、川村小学校と山北中学校につきましては、そういった形じゃなくて、あくまでも動画配信という形の中でやっているという形です。

ただ、動画配信のみじゃなくて、今課長が申し上げたように、いろんな機能がついてますので、それを有効活用しているというような状況の中で、初めのところは、課題を出しておりましたので課題の説明、このところは、こうやって解くんだよとか、こういった、より詳しく説明を動画でアップして流したり、あるいは教科書の一部を説明を加えて、ここのところ、こういう考えだから、こういう形、過程でやってみなさいというような動画配信をしたところでございます。この動画というのは、授業は基本的には45分授業、小学校の場合、45分授業。30分、40分かなり負担がかかるんです。ですから、最初の段階のところは、時間を短くして、1年生あたりはもう5分程度でもいいんじゃないかと。10分、15分そういった中で動画配信をしているというような状況でございます。

ですから、これから、だんだんそういったものに慣れてきますと、さらに、また充実していくかと思えますけども、このオンライン学習につきましては、長時間やるのが、なかなか子どもたちに負担がかかるということを聞いておりますので、その辺のところもよく配慮しながら進めていきたいというふうに考えてございます。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 確かに、このオンライン授業のデメリットというのは、そこなんです。興味を長時間続けるというのは非常に難しいということで、15分から20分がいいのではないかなというようなことも言われておりますので。ただ、双方向が5月25日から始まって、双方向のやり取りもできるということは、先生

たちも頑張ったのではないかなと思うんですけれども、生徒にアンケートを採ったというようなことでしたけれども、そのアンケート結果、生徒の反応というのはどういうものでしたでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 調査結果について、細かく教育委員会には、まだ上がってきておりませんが、校長等を通じて確認しましたところ、非常に動画配信してもらってよかったということで、保護者のほうからも、ぜひ、これを進めてほしいというような意見等はございます。

ただ、まだ全員のところで集計等をしてませんので、今後、そのところはしっかり分析しながら進めていきたいというふうに思っておりますし、今、分散登校をしております、15日から、来週の月曜日から一斉の、通常の登校に入っていきますので、そういった面では、いろんな休み中のアンケートですとか、そういった面も分散登校のときは、まだ校長としては控えているということもございましたので、15日から、そういった軌道に乗ってきましたら、そういった面についてきちっと検証をしながら、さらに進めていきたいというふうに考えてございます。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 先生方、専門業者を呼んで勉強されたと思うんですけれども、その成果が、早速出てそのようなやり取りができていないかなと思うんですけれども。この先生方の勉強というのは、その機器の操作方法ですとか、あるいは動画の作成の方法とか、いろいろあると思うんですけれども、どのようなことを勉強されたのでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 町の、このオンライン学習につきまして、2年前になるんですけれども、三保小学校が一人一台パソコンで、行く行くは山北町の小・中学校全てを一人一台パソコンにしたいという思いの中で、2年前から、まず三保小学校をモデル校的に実施していこうということで、パソコンを、町長の考えもございまして配置させていただきました。

そういった中、ただ、機種をあるだけじゃなくて、どう活用していくかと。先ほどもちょっと話させていただきましたけれども、そういった中で、信州

大学の教授の方をお願いして、三保小学校のほうで研修を積んできました。そういった中で、このZ o o mを使つての1対1のオンラインが、スムーズにできたというのも、その成果じゃないかなというふうに思っています。

三保小学校で4月13日から配信を始めましたので、小・中学校、川村小学校、山北中学校の職員が三保小学校へ行って、実際にそれを見て、そのやり取りを確認したり、そういった中、よし、じゃあ川村小学校、山北中学校でもできることはやってみよう。1対1はできないけども、動画配信はできるんじゃないかということで、そういった形で進んでいったということで、若干5月25日という、時間的にはちょっとかかったかもしれませんが、議会のほうの15日の予算を認めていただきましたのも、その中で、その時点で、アンケートを採って、W i - F i 環境を整えて、タブレットを配付、貸出ししまして、何とかここまでできたというような状況でございますので、そういった研修の機会というのは、非常に大きな一つの効果じゃなかったかなというふうに思っています。

ですから、今後もそういった面をやっていかなきゃいけないということで、先ほど、信州大学の先生の話をしていただきましたけれども、これまでも、山北町は全ての小中学校の職員、夏休みにこういったオンラインという言葉はなかったです。パソコン研修という中で、研修を積んできたということでございます。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 全ての小・中学校の先生方のパソコン研修をされ、あるいは、信州大の教授にノウハウを教えていただいたということですが、そうしますと、これから徐々にスキルも磨かれていくんだと思いますけれども、ある程度のオンライン授業に対するスキルというのは、先生方は身についたという考えでよろしいですか。

議 長 教育長。

教 育 長 まだまだ、あの初歩的な段階で、今、何とかできたということでございますので、これについては、まだまだ、しっかりと研修していかないと、というふうに思いますし、先ほどの中でもお話がございましたけれども、ただ、職員の研修だけでなく、それと年に1回、2回の大学の先生に来ていただいての研修だけでなく、あるいは業者等に年に1回、2回だけでなく、通

常学校の中に、そういった支援員というんですか、そういった方を置いて、やっぱり通常的に、パソコンをやるというのは、準備がかなりの時間的にあるんです。必要なんです。ですから、そういった教材づくりというんですか、そういった面も先生方それだけにかかっているわけじゃありませんので、そういった面の支援というのも、非常に大きな要素かなというふうに思っています。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 先ほど、教育長の和田議員の回答の中で、機器を設置するだけではなくて、それをこれからどのように使うかということが重要だというようなお話がございましたけれども、このオンライン授業が定着すれば、今回のように、予期せぬ事態でも即対応ができて、子どもたちの学習の場を止めることがなかったんだと思うんです。

そして、先ほどお話の中では、ちょっと教職員のように目が向いていたと思うんですけれども、子どもたちにも、このパソコンあるいはタブレットを操作させるというのは、特に低学年の場合には非常に難しいと思うんですけれども、日頃から機器に接していないと操作の仕方すぐに忘れてしまう。子どもはそんなことないでしょうね、私なんて、すぐ忘れてしまいますので、日々動かしていくことが重要かと思うんですけれども、普通授業に戻った場合、このタブレットの使用方法というのは、どのような方法で使っていくお考えがあるのでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 その辺につきましては、また学校とよく調整しながら、内容のほうを考えていかなきゃいけないというふうに思っていますけれども、やはり、パソコンに慣れているということが、やっぱり一つ大きな要素かなというふうに思います。

ですから、一人一台パソコンということで、学校に置きっ放しではなくて、家庭にも持ち帰れるような、そういう学習。山北町は、eラーニングという家庭学習用のソフトも入ってございますので、それぞれアカウント等は、パスワードがございまして、それを持っていますので、そういった面で有効活用する手段というのはいっぱいあるかというふうに思います。



ですから、日常的に、そういった面で学習の中に生かしていく、学校に来て、あるいは家庭の中でも、そういった面を使っていくような、活用できるような、そういう体制づくりを構築していきたいというように思っています。

今、具体的にどの場面でどういうということはありませんけれども、今後の中で、学校と、よくそのところは調整しながら進めていきたいというふうに考えてございます。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 ぜひ、低学年のお子さんも、日頃タブレットに触れて、いざというときにも一人でも操作ができるように常日頃から触れられるような機会を作っていたきたいと思えますけれども、オンラインだけではできないものもありますよね、人間関係の構築とか。ですから、今後は、このオンラインとオフラインを上手に組み合わせて有効な授業を展開していく必要があると思うんですけれども、それプラス山北の独自性、山北町ならではのオンラインを使った授業展開というのも加えていくことによって、この付加価値がさらに高まるのではないかなと思うんですけれども、この山北町独自性を持たせるというようなことについては、何かを考えはございますでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 町独自のオンラインの学習ということなんですけれども、そういった中で、三保小学校が閉校になります。そうしますと小学校1校、中学校1校という形になります。先ほど、機種の中で小・中同じような機種をとる形の中です。ありますので、こういった面では小1、中1の中では、やっぱり、その辺の連携というんですか、一貫性に立った、あるいは一貫教育、そういったものを推し進めていきたいというふうに考えています。

そういった中での一つのツールとして、このオンラインもあろうかというふうに思います。ですから、大きなくくりの中で、そういった面を特色を作っていきたいというふうに考えています。

今、ここでオンラインについての特徴はと言われても、今整備することによって、いっぱいの中で、今後の中で進めていかなきゃいけないということの中で、ただ大きなくくりの中では小・中一貫の中で、こういった面もさらに進めて

いく、これが、やはり町の独自性にもつながってくるのかなというふうに考えてございます。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 まさに、オンライン授業は始まったばかりですから、習熟度が上がった時点で、山北の独自性をぜひ待たせていただきたいと思います。

町長にお伺いいたしますけれども、生活様式も新しい生活様式に変わり、教育も新しい教育に変わりつつあります。ピンチをチャンスに変えると言いますが、まさに、それが今ではないかと思うんですけども、この山北町の学校の新しい学校様式について、何かお考えがありましたらお願いいたします。

議 長 町長。

町 長 新しいというので、答えになるかどうか分かりませんが、私がかつてPTA等をやらせていただいたときに、ドイツあたりが先進的なそういったようなオンラインのことをやっておりました。そういう中では、やはり自分たちで、子ども自らが、自分たちでそういった課題とか、あるいは一番簡単なのは、その当時、あしたの授業の持ってくるものであるとか、あるいは、保護者に対する連絡とか、全部子どもたちがやっているというふうに言っておりました。

そういったようなことを含めて、自分たちで構成できる。何でもかんでも教わるということも、もちろん大事なことですけど、その中で、さらに一歩進んで、子どもたちが自分たちで学習を作っていくというようなことが、将来、山北町で新しい教育ができれば、私はそのような方向に持っていきたいというふうに思っております。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 まさに山北の小・中学校も変わりつつありますので、町長として、ぜひ見守っていただきたいと思いますが、GIGAスクール構想の前倒しで、今年度中にタブレットを一人一台配付ということのようでございますけれども、今現在は各家庭にタブレットがあるお子さんは、家の手持ちのものを使用していると思うんですけども、そうしますと、このGIGAスクール構想が進んでいく場合には、家にあるものではなく、家にあるお子さんにも、

一人一台配付されるということによろしいんですか。

議 長 学校教育課長。

学校教育課長 そのとおり、各児童生徒全ての者に一人一台行き渡るように整備をさせていただいて、それも家庭学習といいますか、家にも持って帰れるようにしていきたいと考えてございます。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 そうしますと、今でも、オンライン授業をしているようではございますけれども、低学年のお子さんは、なかなかその辺が難しいんですが、一人一台、そして家に持ち帰れるということになれば、今年度中には、全ての子どもたちがこのICT機器に何らかの形で加わるということによろしいのでしょうか。

議 長 学校教育課長。

学校教育課長 おっしゃるとおりでございまして、今年度中、まだ、この補正予算、お認めいただけないんですけれども、すぐに発注等のそういう事務的なことを進めさせていただいて、なるべく早く導入して、それぞれ児童生徒が扱っていくというような状況を作っていきたいと考えております。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 それでは、次に移りますけれども、その一人一台パソコン、タブレットが配付された場合には、その操作方法もそうですけれども、先生方のそのスキルのほうも充実した授業を定着させるためには、やはり、専門員のアドバイスとか、指導が非常に欠かせないと思うんですけれども、先ほどの回答の中で、教育長もGIGAスクールサポーターですとか、ICT支援員というようなお話をされておりましたけれども、教育長、もう一度伺いいたします。支援員の必要性について、いかがでしょう。

議 長 教育長。

教 育 長 ICTの支援員ということですが、これは、学校図書室も、ちょっと同じ考えが私ございます。図書室にも、司書を配置することによって、その読書活動がかなり有効になります。山北町の生涯学習センターにも、数年前から司書を配置するようになりました。かなり内容が充実してきているというふうに私も思っています。

コロナの関係で、すぐに電話で貸出しをするというようなことも、司書のこういった発案ですか、そういった考え方がございます。

ですから、図書室を充実させるためには、これ、司書も必要だということでございますので、このパソコン教室、あるいはパソコンの活用、こういった面についても、こういった支援員というのは、非常に大事なものかなと。いわゆるパソコン司書じゃありませんけれども、そんな言葉を使っているところも見たことがございますけれども、そういった考え方は、やっぱり必要じゃないかなというように思っております。

ですから、研修を1回、操作の仕方、そういったことによって、教職員の技術能力の向上、さらには、この動画を作ったり、あるいは授業をプログラミング教育を推進するに当たっても、そういった支援員の力というのは、非常に大きいかなと。先生個々が全てやるんじゃなく、そういった力を借りながら進めていくというのは大変有効じゃないかなというふうに思っておりますので、こういった形になるかと、まだ構想というか、今後の中で考えていかなきゃいけないというふうに思っておりますけれども、ぜひ、そういった面を充実させながら、それこそ町の独自になろうかなというふうに思っております。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 このようなICT支援員の配置をということであらうと思っております。これによりますと、4町で一人配置というような何かことはあっているんですけども、先ほどの教育長のお話の中では、市町の状況の中で、非常に難しいと。ただ、情報公開をしながら連携していきたいというようなお話でしたけれども。そうしますと、この広域での配置というのは、まだお考えではないということですか。

議 長 教育長。

教 育 長 このICT支援員は、4校に一人分、地方財政措置、こういう対応なんです。ですから、非常にこれ厳しいなというように思っておりますので、やはり町独自というんですか、町として、やっぱり、今後のこの考え方をしっかりと、もっとこれを進めていかないといけないというふうに思っておりますので。ですから、これ、他町と一緒にやるというのは、なかなか、これ難しい。

ただ、町独自だけでなく、国・県、特に県のほうにこういった面で支援員というのは、非常に大事なんだということで、積極的に要望のほうはしていきたいというふうに思っています。

ですから、そういった面で、県でどのように考えていくのか、スクールサポートスタッフという先生の補助をする、いわゆる印刷をしたり、マルつけをしたり、いろんな先生方の補助的な授業というのが、今年度、県の予算でつきました。配置してございます。そういった面でのICT支援員も考えてほしいという中で、県のほうにもしっかりと働きかけていきたいというふうに考えてございます。

ですから、少なからずもICT支援というのは、必要不可欠なものではないかなというふうに考えてございます。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 町長にお伺いたします。

この支援員の派遣というのは、当町の子どもたちの学習の遅れを取り戻すためにも、また、今後の新しい学校の形を作っていくにも、非常に重要な位置づけになると思うんです。

ただ、この支援員を派遣するとなると、予算づけが必要になります。このような厳しい状況下の中であるんですけれども、この予算づけは早急にしていただきたいと思うんですが、いかがでしょう。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、町としても優先的にそういったようなものについては、予算措置はしていきたいというふうに思っております。

ただ単に支援員だけではなくて、全体的なところで、どういうふうに考えるかということが、非常に大事だというふうに思っておりますので、そういった意味で、支援員だけでなく、様々なオンライン授業もございますし、あるいは、これから、やっと思っておりますやまきた塾みたいな、そういったようなこともあります。

様々な教育に関わるあらゆるものについて、山北町の子どもたちが一番いいというような、そういったような教育環境を作ることが私の責務だというふうにも思っておりますので、そういった意味では、ぜひとも、そういった

ような予算措置も取っていききたいというふうに思っております。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 町長の口から予算措置を取っていききたいという言葉も聞かれましたので、次に移りたいと思います。

タクシー券のシルバー定期券への利用拡大ということなんですけれども、今年度高齢者福祉タクシーの利用範囲が回数券にまで広がりました。その御説明を頂いたときに、シルバー定期券にも利用できるよという町民の要望がありましたということをお伝えいたしましたけれども、今回、そこにまで利用範囲が及ばなかった理由というのは何なんですか。

町 長 福祉課長。

福 祉 課 長 お答えします。

今のところ、富士急湘南バスとの調整を始めておるところでございまして、まだ、そこまでの段階ではちょっと調整ついておりませんので、そういう状況でございます。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 今回の回答の中では、富士急湘南バスさんと交渉をして、調整を始めていて、今後導入していきたいと回答を頂いておりますけれども、このシルバー定期券には3種類あるんですね。3か月、6か月、1年と。そして1年利用できるものは2万6,200円と。これは路線バス内でしたならば、どこでも利用できます。

ただ、循環バスには利用できないんです。これ、今後バス会社さんと交渉する際に、循環バスにも利用できるように交渉をしていただけると、さらに利用範囲が拡大し、利用者にとっては便利なアイテムツールになると思うんですけども、その辺いかがでしょう。

町 長 福祉課長。

福 祉 課 長 おっしゃられるように、今このシルバー定期券、富士急湘南富士急グループの中では使えるということで、循環バスでは、ちょっとできないよというようにございましてけれど、富士急湘南バスと今後も調整して、話をしていく中で、そのような話もっていききたいと思いますが、これも相手のあることがございますので、ちょっと今後どうなるか、明確には、今こ

ではお答えできませんけれど、その話題は乗せていきたいと思います。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 循環バスは町が購入したバスですから、ぜひ、これにも使えるように交渉していただきたいと思うんですけども、町長、鶴の一声どうでしょう。

議 長 町長。

町 長 基本的に、前から何回も言っていますように、こういう福祉タクシーとか、そういったような交通弱者に対する考え方というのは、一回やって駄目だったらやめるというわけにはいかないわけです。

ですから、全てのことが、一回できれば、それをさらによくすることはできますけど、悪くするというようなことは考えておりません。そういう意味では、慎重にその循環バスについても、別に、その何というんですか、今石田議員がおっしゃったのは、そのタクシー券をそのあれに使えるというようなやり方ですけども、それよりも、さらにいい方法があるかどうか。あるいは、そして、また、それが継続してできるかどうか。様々なことが必要だというふうに思っておりますので、交通対策については、山北町について、もう一番の町民から要望でございますので、そういったことについては、必ず後退することはない、一つでも一個ずつでも前に進みたいというふうに思っておりますので、そのために知恵を絞ってやっていきたいというふうに思っております。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 町長の口からは、具体的な回答は頂けませんでしたけども、課長のほうは交渉していただけるという話ですので、ぜひ、これは前向きに検討していただきたいと思いますが。

議 長 副町長。

副 町 長 町の循環バス云々の話なんですけど、町長の考え方を申しますと、高齢者の方々は循環バスそのものをただにしようという考え方を持っておられます。そうすると、それが高齢者の定期券になるのかということも含めて、全体的に広い考え方で、それで一度やっちゃったものはやめるというわけできないので、その辺は慎重に考えていきたいということで、申し上げたということで、町の考え方でございます。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 じゃあ、先ほどの町長の話の裏には、そのようなすばらしいアイデアがあったということによろしいわけですね。

それでは、これで最後にいたしますけれども、新型コロナウイルスの対応についてもそうなんですけれども、町民あつての行政ですから、ぜひ、町民にいいと思われることは、予算立てが必要な場合には無理かもしれませんが、いいというようなものは早急に、後手に回ることなく対応していきいっていただきたいと申し上げ、終わりにいたします。